

平成27年度第3回総合教育会議 会議録						
開催日時		平成27年8月18日(火) 午後1時30分				
開催場所		湯津上庁舎102会議室				
会議出席状況	市長	津久井富雄	出席			
	教育委員	小高一紘	出席	深澤道昭	出席	
		日原悠子	出席	車田宏之	出席	
		川上聖子	出席			
	教育長	新江侃	出席			
	庶務	教育部長	奥村昌美	教育総務課長	益子正幸	
		教育総務課	小林真由美・渡邊政典			
次 第						
1	開 会	午後1時30分				
2	あいさつ	市 長				
3	議 事	教育再生首長会議における各市長からの提言より				
		(1) 教育制度について				
		～ すべての校種における就学年齢の弾力化 ～				
		(2) 教育財政について				
		～ 子どもの貧困を救う学校給食費無料化 ～				
		(3) 道徳教育・愛郷心について				
		～ バランスのとれた教育体制の構築 ～				
		(4) グローバル人材の育成と国際交流について				
		～ ICT技術を活用した新しい教育 ～				
4	そ の 他	特になし				
5	閉 会	午後3時05分				
6	会議の要旨	次のとおり				

## 平成27年度第3回大田原市総合教育会議 発言要旨

平成27年8月18日（火）

開会：午後1時30分

○教育部長 定刻となりましたので、ただいまから、平成27年度第3回 大田原市総合教育会議を開会いたします。  
私は教育部長の奥村でございます。本日の進行を務めさせていただきます。  
初めに、本会議の主催者であります、津久井市長があいさつを申し上げます。

○市 長 （市長あいさつ）

○教育部長 ありがとうございます。

○教育部長 それでは、次第の3 議題について協議していただきます。ここからの議事進行は、大田原市総合教育会議設置要綱第4条第1項の規定に基づき、津久井市長が行います。

○市 長 円滑な議事運営に努めさせていただきたいと思っておりますので、御協力のほどよろしくお願いいたします。  
本日の議題は次第3に記載のとおり4件ございます。

去る7月15日に東京都千代田区の都市センターホテルで開催された教育再生首長会議に出席した際、各首長から寄せられた教育に関する提言について協議してまいりました。

その中から4つの提言を取り上げ、要旨についてご説明申し上げます。

説明の後、皆様から御意見、御感想をお聞かせいただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

（「資料1」を基に説明を行う）

- （1）教育制度について  
～すべての校種における就学年齢の弾力化～
- （2）教育財政について  
～子どもの貧困を救う学校給食費無料化～
- （3）道徳教育・愛郷心について  
～バランスのとれた教育体制の構築～
- （4）グローバル人材の育成と国際交流について  
～ICT技術を活用した新しい教育～

○市 長 説明が終わりましたので、質問や御意見、御感想などがありましたら、お聞かせいただきたいと思っております。  
〔上記（1）から順に意見、感想等を求める〕

○日原委員

飛び級制度の実施については文部科学省の中でも、このような傾向があるのでしょうか。

○市長

今回開催された教育再生首長会議は、さまざまな問題を話し合い、今後文部科学省に働きかけを行うことで、法制化、制度化していこう、という会議であります。ですから、文部科学省が前向きに考えていこうという段階には今のところなっておりません。

○日原委員

私が、フランスに留学したときの経験ですが、そこで、9歳の子と6歳の子を見たのですが、9歳の子は3年生で5年生に飛び級で進学しておりました。また6歳の子は、覚えが少々遅く、親御さんはもう1年、1年生をやるべきかどうか、たいへん悩んでいたことがありました。

飛び級自体は、できる子が上がるということなので、それほど問題があるとは思わないのですが、もう1年同じ学年に通わせるということに対しては、本人の気持ちだとか親御さんにとってはたいへん覚悟が必要になってくるかと思えます。

○小高委員長

義務教育の理念の一つには、子どもたちの将来や未来に夢と希望を抱かせることにあるとなっています。その子にとって本当に必要な教育なのか、その子の能力を伸ばせる教育をすべきだと思っています。

青森県むつ市の宮下市長の考えは、終戦前後に実施され、戦後の教育改革で姿を消した飛び級制度の復活だと思えますが、私はこれに同調したいと思います。

その子の持っている可能性を伸ばすことは、国や自治体の責任でもって積極的に実施すべきだと思えます。

これまでの日本の教育界がとってきた、ある種偏った平等心といいますか、できる子もできない子もいっしょに授業を受けるということは、全体的にマイナスになると思います。

最近の日本は、元気がないと言われており、活力の創出のためにも思い切った教育改革が必要ではないかと感じております。

東南アジア各国は、日本の教育制度を取り入れて成果が上がっており、日本はアメリカ、先進国の教育制度を取り入れて、逆に下がっている現状が実態だと思えますし、特に考える力が弱くなっていると感じています。

飛び級制度の復活については、その子の持っている能力や可能性を大いに伸ばすことができる制度であり、市や国のためにたいへん貢献できる制度だと思えます。

○川上委員

飛び級制度に関しては、その子の可能性を伸ばすという意味でも前向きに検討してもよいと思います。

また、習熟度の低い子に、もう1年同じ学年に留まるということは、後輩の子と同学年になり、その子の自己重要感を傷つけることにもつながりかねないので、仮に飛び級で進学した子であっても、途中で同学年に戻ってきたりすることもできる制度のような柔軟な運用方法ができれば良いのではないかと思います。

○車田委員

同一学年を繰り返すということは、保護者の方の反発が強いと思います。

飛び級制度については、競争が激しくなることが予想され、それに耐えられる子ならいいのではないかと思います。

○深澤委員

制度自体はいいと思いますが、だれがどのような基準で飛び級の判断をするのか非常に難しいのではないかと思います。

また、子どもの気持ちや人間性を養う時期でもあるので課題が残るのかと思います。

○教育長

飛び級に関しては反対です。義務教育の理念には機会均等ということがあります。子ども達に大切なのはまず人間関係であると思います。高校生ぐらいで目標もあり、しっかりとした考え方を持った学生ならば結構かと思います。しかし、小中学校への導入は競争を助長し、思いやりなどよりも自分の飛び級のこと执着してしまって、周りとの人間関係をうまく築けなくなってしまうのではないかと思います。

授業の中で、できない子と優秀な子が一番差別を受けている、という事例がありました。できる子は先生がほったらかしでもできますし、できない子はできないままで落ちこぼれてしまうような時代もありました。やはり、学校生活の中で、できる子もできない子も到達できるのは「できた」子であると思います。できる子もできない子も「できた」という達成感が、人間性豊かな子を育てるのではないかと思います。

そういった意味で、義務教育への飛び級の導入は時期尚早であると思います。また、留年という考え方はナンセンスであると思います。

○日原委員

飛び級については、教科ごとに弾力的な運用ができるような制度もあるのではないかと思います。国際バカロレアのディプロマ・プログラム資格の取得可能な年齢を15歳までに引き下げるなど義務教育期間に大学の受験資格が得られるようにすることや、やはり、教育長の言うとおりに、義務教育期間中は、人間性の構築という意味でも「できる」「できない」で判断することはできないのではないかと思います。今すぐに導入できるものではないのかと思います。

○市 長

今すぐに導入するというのではなくて、むつ市においては、そのような制度も必要ではないかという提言であります。

また、このような議題をテーマにして、本市において、どのように市政に反映できるかということをお委員の皆さんの意見を聞くことで検討してまいりたいと思っております。賛否の分かれるところではありますが、さまざまな意見をいただくということは大切であろうと考えております。

こうした議論は、日本だけでなく、国際的に活躍できる人材を育成していくうえで、教育制度が今のままでいいのか、改革していくのかなど、どのようにして子ども達を育てていくかという大きな要素になると思います。

○市 長

では、次の議題に移ります。(2)教育財政についてでございますが、本市の給食費の無料化について、実施した結果の率直な意見をお聞かせ願えればと思います。川上委員からお願いします。

○川上委員

この政策については、継続してほしいと思います。やはり、教育の中で勉強ができる、運動ができるということの以前に「食」に関して、身体を作る、精神を作るうえで重要であると思います。市の子ども達に対しての取り組みが、わかりやすく現実的な政策であり、これを貧困世帯だけでなく、平等に実施されている点に深い意義があると思います。

○車田委員

これに関しては、保護者の意見や周りの意見などを具体的に聞いていないので申し訳ございません。

保護者の負担がないというのはありがたいことだと思います。違った見方をすると、給食費分を塾など別の習い事に充てるなど、各家庭での格差が問題にならないでしょうか。塾に行ったからといって、成績が上がるというわけではありませんが、通わすことができる家庭とそうではない家庭の格差というものが懸念されます。

○市 長

この制度を実施した理由は、一つには子どもの貧困の問題があります。もう一つとして、この施策の財源は、親御さんたちが一生懸命に働き、納めていただいた税金で賄われているという仕組みを子どものころから給食を食べるたび、学校の先生には教えていただきたい。

親御さんが働くということが、いかに重要なことで、またその一部を税金として納めることが、国全体の公平感を広めていくことにもつながり、そういった政策を実施できる財源になっていくことをよく理解していただけると、この給食費無料化の本質や意義というものがわかってくるのではないかと思います。

○深澤委員

給食費については、貧困の問題もありますが、実際に徴収できる方も大勢いる中で、政策としては非常に良いと思いますが、市の財源の使い方として、ちょっともったいない部分もあるのかなと思います。と言いますのも、最近の夏は異常に暑いので、給食費に充てる財源を各教室にエアコンを設置するなど教育環境の充実に充てることもできるのではないかと思います。

○日原委員

私が教育委員になったころは、給食費は封筒で徴収しており、未納の子がたくさんいたり、生活保護を受給している世帯の子が、保護費を受給しても持ってこないということもありました。どうしてそれを学校の先生が徴収しなければならないのか疑問をもっておりましたし、金融機関へ振込などできないのだろうかと思っておりましたが、直に自動振替になり、無料化となったわけです。

給食費の無料化というのは、大田原市のセールスポイントだとは思いますが、国に働きかけて、本来なら国が責任を持って、私立公立の小中学校問わず無料化にすべきだと思います。

○市 長

委員のおっしゃられたようにこの教育再生首長会議に提言した理由は、まさに全国に働きかけていこうという運動の一環であります。次に小高委員長お願いします。

○小高委員長

制度に関しては、たいへん賛成しております。

しかしながら、無責任な保護者が多いといいますが、無料なのが当たり前という感覚を持っている方が多いのではないかと思います。本来ならば保護者が負担しなければならぬものですので、その辺をよく理解してほしいと思います。

## ○市 長

全くのそのとおりであり、サービスのしすぎではないかということも言われておりますが、制度を導入した当時の日本の景気が低迷している中で、子育て世代への負担軽減や人口減少への歯止めなど選挙を実施する際のマニフェストにも給食費無料化を盛り込みましたが、法的に認めてないからできない、というわけにはいきませんし、政治家としての信念であったわけであります。

制度の背景や意義について、何のアピールもしなければ、無料ということが当たり前になり、今度は医療費を無料にしてほしい、など制限がなくなってしまう。

この制度を実施するために、どのようにして財源を捻出してきたのか、これを維持するためにどんな努力をしているのかを発信していかなければなりませんし、4年に1回の選挙までで終わってしまったのは、打ち上げ花火のようで寂しいですので、継続して実施できるようにしていきたい。

実施に当たっては、たとえば、何の努力もしない人を国が面倒をみてくれて、努力して税金を納めている人は行政の恩恵を受けられないという不思議な不平等もあります。納めた税金は、子ども達や私たちのすべての人々の宝であり、裕福であってもそうでなくても、子どもに対する措置というものは、平等でなくてはならないと思います。難しい問題ではありますが、よく選択して過剰なサービスとならないよう注意していかなければならないと思います。

## ○教育長

本来は、国が政策として実施すべきことであると思います。大田原市の財政、人口規模でも知恵を絞り、努力すれば無料化ができるのですから、他の自治体でもできるであろうし、本市が先進地として全国への発信基地となってもらいたいと考えます。

それと一番心配しているのは、無料化への慣れというものを懸念しております。毎年4月に新入生を迎えるにあたって、校長先生方には、給食費無料化の意義や無料化によって浮いた家計を子ども達のために使ってもらいたいとことある毎に話しております。

また、税金の問題についてですが、市内の小中学校においては、租税教室にもしっかりと取り組んでおります。食育については、命の問題でもありますし、給食がでてくるまでに、陰で働いている方への感謝の気持ちとか、そういうものを学校で指導していただくようお願いしておりますし、学校でも前向き取り組んでいただいているようで、まだまだではありますがいい方向へ進んでおりますので、いい意味でこの事業は継続してほしいと思います。

○教育長 給食費無料化について話が聞きたいという自治体も多く、今年も、これまでに10の自治体が行政視察に訪れております。

○市長 お話のとおり、発信基地にはなっているようなので、是非、国においても動いてくれるとありがたい。

それでは、(3)の道徳教育・愛郷心に関してを議題といたします。小高委員長お願いします。

○小高委員長 岐阜県羽島市長の提言についてですが、バランスのとれた教育体制の構築ということで、本市も改善が必要であろうし、原点に立ち返って見直すことも大切ではないかと思っております。というのは、現在土曜日は休日となっておりますが、これを廃止し、以前と同様に週6日制に戻してもよいのではないかと思います。

現在の授業時間はいっばいで子ども達にとっても「ゆとり」がないというのが現状であり、結局土曜日の授業時間を削って平日に充てたことが原因であろうと思っております。

本来、土曜の休日は、子ども達にゆとりを与えるという意味で始まったことでもありますし、先生方にもゆとりを持って教育にあたってもらったことだったはずですが、しかしながら、現実には、子ども達も先生方にもゆとりがない状態を作ってしまったように思います。

一地方の公共団体では難しいかも知れませんが、教育再生首長会議でも検討していただいて、改善できる方法や土曜日の有効利用ができればと思います。

また、日本の義務教育の1年間の授業時間というのは、他の世界の国々と比較して、多いですか、少ないですか。

○教育長 多いと思います。今「ゆとり」がないというのが、最大の課題であります。英語の授業などは、打ち合わせの時間の15分を3日刻みで時数を確保するようになど、ゆとりがない中で、無理やり詰め込んでいるような状態です。

○小高委員長 現在の制度を元に戻すということは難しいかも知れませんが、土曜日を開校することで、子ども達や先生方にとってゆとりが生まれるのではないかと思います。

○市長 ありがとうございます。次に日原委員お願いします。



○日原委員

私も週休2日は反対でして、労働者の週40時間制度導入の影響であると思います。

アメリカでは、キリスト教ですから日曜は一般的に教会学校があります。ですから土曜は休みということなんです。逆に現在の私立学校は、ほとんど土曜も授業を行い、大学への競争に向けて私立志向が強くなっていると思います。

また、郷土愛を育むためにも合併はしないでほしいと思います。

○深澤委員

理数系に強い人材を育てることが、行動力のある人間を育てることになるかどうかはわかりませんが、本市として、特色のある教育を実践してほしいと考えます。

また、道徳心・愛郷心については、心を育てる教育が大切であると思います。

○市長

川上委員お願いします。

○川上委員

道徳心や郷土愛というものは、授業で教えたから身につくというのではなく、地域の人たちに自分たちが育てられたとか、人と人との関わりあいの中から育っていくものであろうと思います。羽島市の例のように理数系の授業に使うのではなく、一般的に入っている道徳や図工の授業に充てて、地域の人々に協力を募って、ものづくりや体験談などを聞いたり、地域を巻き込んだカリキュラムができたらいのではないかと思います。

そうすることで、月曜から金曜に通常の科目を無理なく集中的に先生方が教えることができるのではないかと思います。

○市長

現在、市では学童保育と放課後子ども教室を実施しており、特に教育効果を期待しての体系だったものでありますが、子ども達の安全な預り所的に運営されています。

平日の午後4時から6時ぐらいと土曜日に実施していますが、この辺の使い方しだいで先生方の多忙感の解消など考える余地はあるのかなと思います。

○車田委員

土曜日の復活には賛成です。すぐにできないということならば、特別な講座を開いて授業を行うというのは土曜日の有効活用になると思います。

飛び級の話もありましたが、こういった時間を使ってできる子を伸ばすということも考えらるのではないのでしょうか。

○車田委員

しかしながら、できる子は自分で参考書などを買ってやったり、誰かに教わってどうこうということはないと思います。もっと勉強したいという子の居場所にはなるかと思っています。

○市 長

ありがとうございました。次に教育長お願いします。

○教育長

市の現状ですが、土曜学習室を開催しており、受検を控えた中学3年生だけですが、11月～3月程度の期間に先生や大学生、あるいは身近な方のボランティアで実施しております。今後土曜日の有効活用というのは大きな課題になってくると感じております。

また、郷土を大切にするという教育については大賛成であります。地元の文化財や伝統を体験を通して学習してほしいと思っております。ふれあいの丘で行う宿泊学習時には、湯津上の文化財や歴史的な環境に触れることで、興味や誇りを持てるようになると思います。道徳や総合的な学習の際には、地域の人材を活用するようお願いしており、一度故郷を離れても、また戻ってきたいと思えるような教育が必要であると思います。

○市 長

土曜日の活用については、委員の皆さん共通に必要性を感じていることがわかりました。道徳教育や郷土史を学ぶ時間にあてるなど、今後精査して皆さんと検討してまいりたいと思います。

次に（４）グローバル人材の育成と国際交流に関してということで、ICT技術を活用してということですので、教育長から大田原市の現状を報告いただいて、委員さんの意見を聞きたいと思います。

○教育長

現在、先生方ががんばっており、非常に効果を上げていると思います。すべてオールラウンドに使えるものではありませんので、どの教科のどの場面でタブレットを使用すればより効果を上げられるか先進校が分析しております。特に理科においては、植物を立体的に見ることができたり体育の跳び箱では、自分の飛んでいる姿をすぐに見ることができて、どこが悪いのかを動画で確認できることや一つのテーマを数人で考え、話し合い、発表するような協働の学習でも効果は高く、より効果のある場面で使用できるように検討してい行きたいと考えます。

○市 長

タブレット教育という新しい事業を始めて、先生方には一時的とはいえ多忙を強いてきましたが、その後タブレットの使用に慣れてからは、多少なりとも先生方の多忙感解消につながっていますか。

○教育長                    少なからず多忙感の解消につながっていると思いますし、ICT支援員の活躍によって、苦手な先生方の助けになっていると思います、タブレットを使用した授業については、子ども達も楽しみしています。

○市 長                    それでは、車田委員お願いします。

○車田委員                私は、ICTということではなく、グローバルということについてですが、グローバルな人材を育てるということには異存はありませんが、果たしてグローバルな社会が幸せになれるのか、ということ逆を市長にお聞きしたいと思います。ヨーロッパなどはEUができたことで、経済的にも政治的にもドイツだけが、それも上の方だけが幸せになっているように感じますし、アメリカの大企業がグローバル化と言って市場を開放させ、一人勝ちしていきような社会で本当に幸せになれるのでしょうか。

○市 長                    世界的な人材を育成するためのコミュニケーションツールとして、ICT技術の活用を進めており、特に情報収集において、自国だけの情報だけでなく、世界の情報を集めることや的確に情報を取捨選択できる能力を身につけることができるようになるのではないかと思います。

「幸せ」ということについては、グローバルな視点でローカル、地域で生きていくという「グローバル」な社会づくりをすることで幸せな生活を作ろうということであり、世界観を持ちながら地域の大事さ、地域の必要性、地域の中で幸せに生きていくというライフスタイルをこれから求めていくべきではないかと思います。

自分の周りだけを見ていればよいということではなく、世界を知り、自分に必要なものを取り入れ、自分の住んでいる家や地域を幸せな地域を作っていくためのコミュニケーションツールとして、ICTをうまく活用していくことが必要ではないかと考えます。

また、21世紀の情報化社会といわれる国際化の中で必要な要素であろうと思いますし、大田原市の子ども達にも、その基礎的な資質を養うという意味で取り組んでおります。

○車田委員                海外に工場や生産を移し、国内では別のものを生産しなさいというようなグローバル化で幸せになれるのでしょうか。昔のような社会に戻った方が幸せではないかと思いますがいかがでしょうか。

○市 長

一概に過去に戻ることが幸せにつながるかといえば、賛否分かれるところだろうと思いますが、子ども達の未来を考え、どのように教育環境を整えていくかということはこの教育委員会で検討していかなければならないわけで、未来は我々が築いていかなければならないし、過去は学ぶことはできても、消すこともできないし、直すこともできないので、この超高齢化少子化社会で、どのような子を育てるのか、育てられる環境を作れるか、それにはグローバルな感覚を持った子を育てていくことが必須要件であると思います。

そのような人材は、ローカルだけでは、育てられないと思いますし、グローバルな人材を育てていくことが、これからの社会には必要であるし、そのためには、ICT技術を活用して、居ながらにしてグローバルな情報を集めることができる、発信することができるということが必要なんだろうと思います。

○教育長

学校現場に期待するグローバルな人材とはどんなイメージでしょうか。

○市 長

やはり日本語のほかに世界の共通語にもなっている英語力であろうと思います。英会話、コミュニケーション能力が大切であると思います。

○教育長

なんといっても語学力、コミュニケーションの能力が必要不可欠であります。主体性や積極性、チャレンジ精神を養い堂々と話せるような子ども達を育てることが必要であると思います。

○市 長

日本の文化だけでなく、外国の文化を知り、理解することでコミュニケーションは成り立ち、一方的な感覚では相手からも理解されません。一つの外国語を覚えることは、その国の背景を知り、理解を深化させていくための大事な一歩ではないでしょうか。

ほかに質問や御意見、御感想などがありましたら、お聞かせいただきたいと思います。

ほかに質問や意見はないようですので、以上で議題に関する協議を終了します。

○市 長                   次に、次第の4 その他 に移りますが、皆様から何か  
ございますか。

事務局で何かありますか。ほかになければ事務局にお返  
しいたします。

○教育部長               以上をもちまして第3回総合教育会議を閉会させていた  
だきます。  
ありがとうございました。

閉会： 午後3時05分